

一人一人に、より具体的な解決方法を考えさせ、自力解決に十分な時間を確保して、教師がそれぞれに個別的な支援にあたった。

— 支援の工夫 —

- 式が立てられない……求めるものは何かを明らかにし、文章にそって言葉の式を考えさせる。
- 計算の仕方がわからない……式の表す意味を考えさせ、具体物を操作させながら、どこから計算したらよいかを考えさせる。
- 答えが違う……自分が求めたケーキの値段を式に代入して確かめさせる。
- 解決できた……努力を認めて言葉かけをし、解き方を友だちに説明できるように準備させる。

以上のように個に応じた支援をし、自分なりに自力解決する喜びが味わえるようにした。また、自力解決の様子を分担して観察し、座席表にチェックして、教師同士がその場で情報交換をしながら、児童のよさをとらえていった。



座席表のチェック（情報交換の場で）

- 自力解決できているか。

- どのような考えで解決しているか。
- 対立する考えをもつ児童はいないか。

練り上げの場では、次のように分担し、本時のねらいに迫れるよう児童に働きかけた。

- T₁ 全体の話し合いをリードする。
 - それぞれの解決方法を発表させる。
 - 似ている考えや違う考えをみつけさせ、まとめていく。
- T₂ 発表児童の補助をする。
 - 児童のつぶやきや反応を見取り、話し合いの様子を見て、児童に発表を促し、よさを認める。

習熟の場では、難易度別プリントを準備し、個にあったペースで進められるようにした。

- **スラスラコース**
本時の学習内容の理解を確かめる基本的な問題
- **ファイトコース**
学習したことを使って解く応用的な問題
- **チャレンジコース**
さらに高度な応用的な問題

教師が2人いるので、個々の児童のつまずきにも素早く対応できた。

(2) 個に応じた多様な教材・場の工夫

① 教材の工夫

実践単元 5年 「分数のたし算とひき算」

まず、T₁が正方形を何等分かした図形をいくつか提示し、どれも全体の $\frac{1}{2}$ になる様子を視覚的にとらえさせ、同じ大きさの分数がいくつもあることを理解させた。